

安倍朝臣虫麻呂の歌一首

六七二番

倭文^{しつ}たまき 数^{かず}にもあらぬ 命^{いのち}もて なにかこ
こたく 我が恋^こひ渡^{わた}る

おほとろのまきのうへのいらつめ
大伴坂上郎女の歌二首

六七三番

まそ鏡^{かがみ} 磨^とぎし心^{こころ}を 許^{ゆる}してば 後^{のち}に言^いふとも
験^{しるし}あらめやも

六七四番

またまつく をちこち兼^かねて 言^{こと}は言^いへど 逢^あひ
て後^{のち}こそ 悔^くいにはありといへ